

「世界に魅せる inaの他喜力」

～キャリアフェス in 春富中 伊那のリアルを実感～

春富中学校 中島 千春



「キャリアフェス」とは？ 「地域の産業を知る。地域の文化を知る。産官学の交流促進。地域全体の活性化」

「地域に学び 地域をつなぐ 地域の力でふるさとの未来をつくる」思いをもった上伊那8市町村の産学官組織で構成する「郷土愛プロジェクト」(向山孝一会長)は、次世代育成事業をより多くの生徒や大人が関われるものという目的のもと、「キャリアフェス」を企画。昨年度は伊那中学校を会場にし、「伊那谷のたからものを発見」のテーマのもと、地元の文化や食、生涯学習等を紹介する団体を集めたブースのエリアと、地元の産業の事業内容や地域で働く大人の思いを伝えることを目的とした企業ブースのエリアに、中学生がお祭りの縁日を巡るように地域の文化、産業、人に学ぶという形で実施されました。

この成果を受け、伊那市では今後独自でキャリアフェスを継続していくことになり、今年度は春富中学校を会場として実施することになりました。

地域の“大人”と生徒が共に企画

市教委担当者をはじめ郷土愛プロジェクト、商工会、地域の公民館長、PTA会長、学校担当者と共に、生徒の中からも実行委員として3年生8名(各クラス2名ずつ)、2年生2名が実行委員として企画・運営に携わることになりました。実施日(7月4日)までに計3回、このメンバーが集まり、春富中学校を会場として生徒の放課後の時間に合わせて3回会合を持ちました。

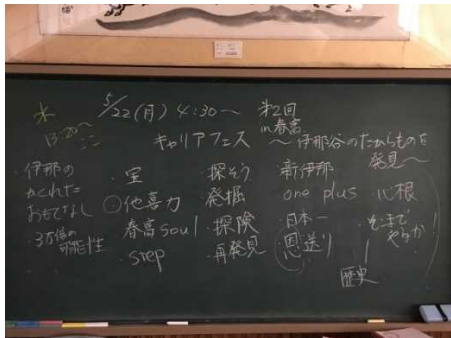
○大人がやってくれるのではない、自分たちで意見を出していくんだ！

オフィシャルな実行委員会は3回でしたが、まず生徒たちは昨年度末(春休み)の登校日に市教委キャリア教育コーディネーターの久保村さん、教育委員の田畑さん、郷土愛プロジェクトの傳田さんを交えた「プレ実行委員会」を行いました。田畑さんによるちょっとしたアイスブレイクのあと、キャリアフェスの趣旨と共に「春富中を会場とするからには春富中らしさを出すために積極的に意見を出してほしい」と伝えられた生徒たち。リラックスした空気の中で「通学路でいつも前を通るKITZは、実はどんな事をしている会社なんだろう」「地区の祭りで舞をした経験がある！紹介できるかなあ」「学校の近くの和菓子屋さんに来てもらって一緒にお菓子を作って食べたい」等々、思いついた事を次々に口にする生徒たちと、その一つ一つを大切に聞き、認めてくれるお三方。「**自分たちの意見も取り入れられるんだ！**」という思いを持つことができたこの日の経験が、その後の実行委員会でも積極的に意見を出し、企画運営に関する姿勢につながったと思います。

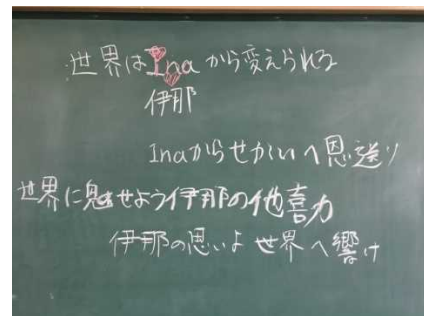


○「伊那から世界へ」キャリアフェスのテーマとミッションを考える

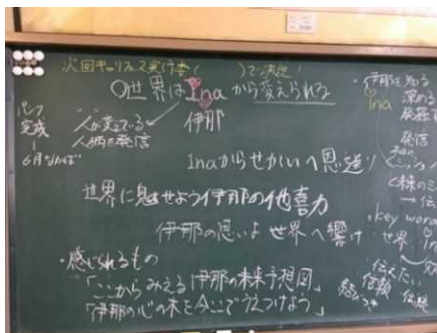
テーマを決めるにあたって、昼休みを使って生徒と学校の担当職員で小委員会を持ちました。昨年度伊那中開催時のテーマは「伊那のたからもの発見」。春富らしさを出せるテーマは何か・・・生徒たちは「伊那市の産業や文化、人にふれる」このキャリアフェスのテーマを考えるにあたり、これまでの学びや出会いの中で印象に残り、大事にしたい言葉を出し合いながらテーマ原案を作りました。これを3回目の実行委員会に提案し決定。さらに実行委員の生徒の一人がテーマからイメージした絵をパンフレットの表紙にしました。



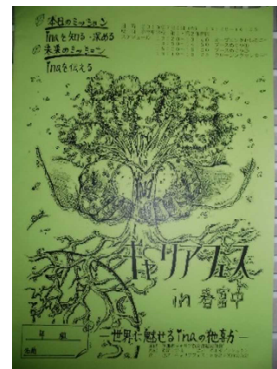
①これまでの学びからテーマとして使いたい言葉を列挙。



②言葉を合わせてテーマ案を絞り込み。



③実行委員会に提案するテーマを決定すると共に、「当日のミッション」「未来のミッション」を考える。



④パンフレット表紙。イメージは「心の中の他喜力根を張って広がっていく」というもの。

☆キャリアフェス in 春富中	テーマ	世界に魅せる inaの他喜力
	当日のミッション	inaを知る・深める
	未来のミッション	inaを伝える

○オープニング・クロージング：生徒のアイディアと大人の力のコラボで実現！

オープニングとクロージングの企画は全て生徒実行委員に任せられました。そこに市役所の小牧さん、学校職員1名が加わって企画会議。生徒たちのアイディアから春富三地区の文化を取り入れて、オープニングでは東春近の車屋太鼓、富県北福地の獅子舞、西春近諏訪形の木遣りを盛り込むことに。獅子舞の道具や太鼓を借用する交渉や運搬は大人の出番、特に小牧さんには大変お世話になりました。オープニング・クロージングの企画・進行は生徒担当。車屋太鼓は地区のお祭りで小学生から演奏していたという生徒に依頼、獅子舞に入る生徒を募集、さらにスポットライトや音響担当など実行委員がそれぞれボランティア生徒を募り、実際に運営に関わった人数は1～3年まで合わせて30名ほどになりました。実行委員とボランティア生徒お互いの“他喜力”、地域の方の協力、大人との連携・・・「ひとりではできないことも多くの人のおかげでできる！」オープニングとクロージングを自分たちの手で企画・実行した生徒たちにとって大きな達成感と学びにつながりました。

※生徒が作成した行動細案の一部

平成29年度 キャリアフェスティバルin春富中 オープニング・クロージング 細案								
時間	No	進行	内容	担当	暗幕	照明	スポン	仕事・備考
～13:10	1	学活	各クラスごと					
13:10～	2	生徒入場	必要な物を準備(マイク・獅子舞・太鼓など)		閉	明		太鼓(車屋地区担当者) 獅子舞(獅子舞担当者) 木遣り(木遣り担当者) はるキュア(担当・最終確認)
13:15完了	3	全校生徒2体入場完了 オープニングアトラクション	生徒入場完了を確認できたら暗転 車屋太鼓が聞こえてくる	緑化 車屋地区		暗	明	 太鼓(車屋地区)
	4	獅子舞登場	(太鼓のソロがあってから)獅子舞が2体を舞う(3頭)	獅子舞担当				獅子舞(葵・ツヨシ・浩太郎・涼平・尚宏・聖那・ももは・みつぎ・としや・えいと・まお・けいご・そら・はると・さら・なお)
	5	はるキュア登場	1つの獅子舞がステージへ行き木遣り披露(その間2つの獅子舞は2体の端っこらへんを舞う) (木遣りが終わったら)もう1つの獅子舞がステージへ行きはるキュア登場(司会の聖那とはるキュアのかけあいでの説明)	獅子舞・木遣り・はるキュア		暗		
	6	1	開会宣言	尚宏				
	7	2	実行委員長のお話	校長先生		明	暗	
13:40～13:50	8	2	校舎					

<オープニング>



諏訪形の木遣り



車屋太鼓



北福地の獅子舞

<クロージング>



三本締めで「めでてえな！」



大きな風船でフェスの閉会



白鳥市長もかけつけて
熱いメッセージを送る。

当日の様子より

～ふるさとのパワーと熱い思いを実感！～

○ヒューマンブース:伊那の文化・生活を伝える17ブース



和菓子作りを体験(友野菓子店)



中尾歌舞伎を体験



伊那で育ったアカマツで遊ぼう(KEES プロジェクト)

○ビジネスブース:伊那の仕事を伝える25ブース



ドローンをシュミレーターで体験(DIG TRIP)



イケメンパパになるために！(上伊那助産師会)



「アイデアを形に」((有)スワニー)

○生徒の感想から

- ・どのブースに行っても楽しそうで、今までで一番迷いました。「伊那から世界を変える」、この伊那の企業が集まれば絶対できると思いました。良い体験ができました。
- ・体験や試食もあって本当に楽しかったです。自分のなりたい職業についても少し考えられたので良かったです。
- ・野球でキッツのグラウンドを使わせてもらっていて、その時いつも疑問に思っていたことがわかりました。バルブを作り、いろんな所で役立っていること、これが「他喜力」だと感じました。ヒューマンブースでは、伊那の文化だけでこれだけ盛り上げられるって感動しました。
- ・どこも地元のものを使用しているんだなと思った。1つの物を作るのにたくさんの人の協力やアイデアが使われているなと思った。物作りや人の考えを大切にすること学んだ。
- ・どの職場にも他喜力があり、職場の人は他の人を喜ばせるように仕事をしているんだなと思った。伊那には素晴らしい人たちがたくさんいると思ったし、伊那の自然は素晴らしいことをあらためて知る事ができた。伊那のすばらしさを伝え、また他喜力を広げて行かなければいけないと思った。
- ・他喜力は人を喜ばせることやいろんな人を笑顔にし、人にエネルギーを与えるということを実感しました。

生徒たち(特に2,3年生)は、これまでの学びや人との出会いの中で伊那市の中に自分がまだまだ知らない文化や仕事がたくさんあること、それらが世界へと発信されつながっていること、「他喜力」を持って仕事をしている地元の人々等に触れる機会を重ねてきました。その上でこれだけの団体が一度に学校に集まり、自分が選んだ場所へ行って話を聞いたり体験したりすることを通して、自分たちが暮らす伊那市の企業・文化・そして人のすばらしさやユニークさを再認識し、実感できた様子でした。「フェス」という名前はそのベースに「楽しむ」ことを願ったものですが、実際に人と関わり体験することを通して、楽しみながら本物に触れることの意義を感じた様子でした。

学びをつなげる

～他喜力は身近にある！～

キャリアフェスで実感した「他喜力」は、普段の学校生活での学習や自分たちの行動の中にもあること、また身近にいる大人が「他喜力」をもって働いていることを、教師が折に触れ意味づけることで学びはつながっていきます。

○生徒の姿を価値づける

・2年生の家庭科の授業。「幼児と遊ぶ」という保育園児との交流に向けてお名前ワッペン作りをした生徒たち。その日の生活記録の内容を取り上げ、園児のことを考えながら製作していることが「他喜力」を発揮しているのだということに気づかせます。

・家庭科でワッペンを作りました。園児に喜んでもらえるように作品ができていると思うので、頑張ってつくりたいと思いました。

・家庭科でワッペンを作りました。園児が喜んでくれるように作りました。名前が入るマドのところは角をなくしてケガをしないように工夫できました。

・スポーツ人口の底辺拡大のために開催された、幼児から小学校低学年児童対象の「野球遊び」にボランティアとして参加した野球部生徒の生活記録から、自分が楽しいと思えることが「他喜力」の原動力になったことを紹介。

伊那市の保育園の人や小学1～4年くらいまでの105人がグラウンドに集まりました。105人中51人が未経験者でした。みんな楽しく過ごしてくれたし、自分たちもとても楽しく過ごさせてもらいました。やっぱり大好きなものはとても楽しくやれるものだと思えました。

○学校で働く人の姿から

校務技師の先生方が生徒のために学習環境を整えて下さっている仕事のこと、また教頭先生、教務主任の先生が朝玄関前を掃除して下さっている様子から、「他喜力」をもって仕事をしている姿を学級通信で紹介。



伸びきった木を剪定して下さっていた校務技師の先生方。

そこは今後使用するプールサイドの木でした。

体育科の先生方がお願いしたわけではありません。

水泳学習に備えて、皆さんの事を思って剪定して下さったのではないかと思います。



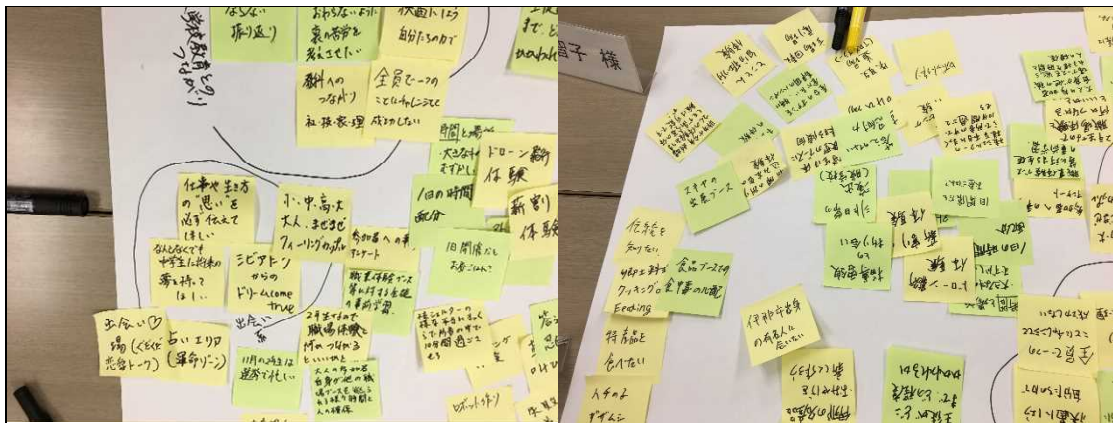
先生方の活動は屋外に留まりません。扉や、水道、電気機器にいたるまでありとあらゆる物の修繕を行って下さっています。修繕だけではなく、冬になると渡り廊下の風よけもつけて下さいますよね。右の写真は、職員室前に飾っているトロフィーですが、実はこのトロフィーを「置いている台」も作成して下さった物なのです。

校務技師と呼ばれるお仕事は、トロフィー台を作らなければいけない仕事なのではないでしょうか。はたまた、風よけを取り付けなければいけない仕事なのではないでしょうか。おそらく、『やらなければならないこと』ではないと思います。ではなぜ、やって下さるのが職場体験に行った皆さんなら分かるのではないのでしょうか。私たちが学校で安全に生活し、学習できるのも「当たり前」ではないとことを忘れないようにしたいです。常に感謝の気持ちを持って生活していきたいものですね。

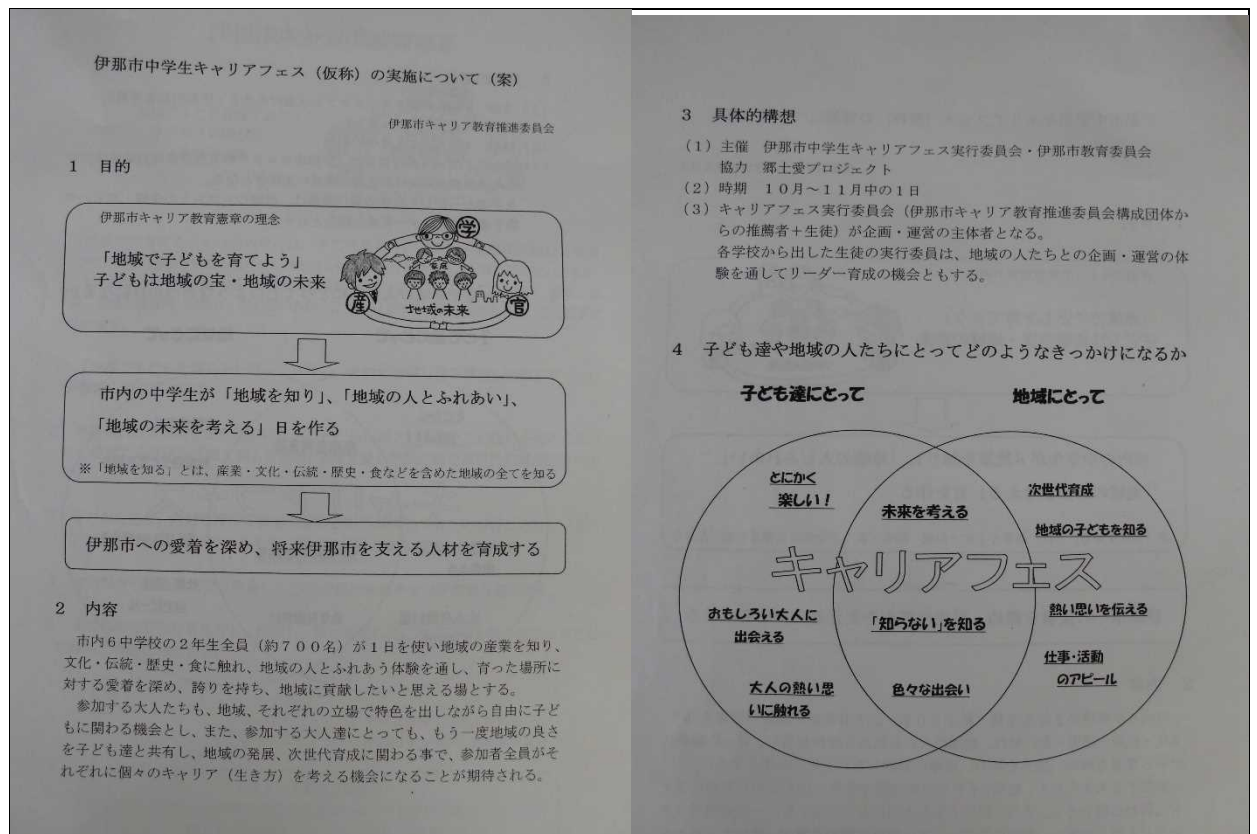
広がる、広げる キャリアフェス ～今後の方向～

伊那市キャリア教育推進委員会では、来年度より**市内6校の全中学校2年生を対象**にし、市民体育館を会場にキャリアフェスを実施することを決定しました。それに向けた組織作りや具体的な準備等、昨年度・今年度のキャリアフェスの反省も参考にしながら進めていきます。10月31日、産学官の代表により組織された第1回の実行委員会が行われました。実行委員長である伊那中学校武田校長先生より「実現可能か不可能かを考えるのは悪い癖。今はキャリアフェスでやってみたいことのアイディアを自由に出しましょう！」という提案があり、実行委員が5つのグループに分かれて自由に意見を出し合う時間もたれました。産学官の様々な立場のメンバーが集まってキャリア教育について考える機会が持てることも自分たちにとってのキャリア教育だと実感する時間でした。

伊那市の文化や産業の魅力や人々の熱気に触れ、ふるさどが好きになり、そんなふるさどで生きている自分を好きになる…郷土愛をベースにして自分の生き方を考えられる「キャリアプランニング能力」形成の一助になるような役割がこのキャリアフェスで果たせるよう、様々な立場の大人たちが考えていけると良いと思います。



「キャリアフェスで中学生に伝えたいこと、やってみたいこと」委員それぞれの考えを付箋に書いてアイデアを共有。



伊那市キャリア教育推進委員会で提案された骨子